大館の歴史散歩

蒼杉碧樹の山と丘

火内の山々 ⑪

一年間にわたる「山」のシリーズも最終回を迎えた。

山の歴史、山称の由来、ふもと住民との生活のかかわり、そして地域に根付いた山の信仰など、私たちが調べ得た諸事例をこれまで紹介してきたが、そこには私たちの知らない、そして見落としたことが数多くあると思う。それらについては今後も追求し続けたいと考えているし、一方このことに興味のある方々によっても、より一層広く深く探究されることを望んでいる。

これまで紹介してきた山々のほかにも、興味ある事例をもつ山が数多く存在する。大館市の場合は地勢上市域北部に片寄っているが、北から順にそれらの一端を簡単に紹介して、このシリーズの最終章としたい。

標高八二〇メートル、青森県境に位置し、市内の山の最高峰である大日影山。山称の一字が「戸」か「殿」かで話題となった縫戸山。国指定天然記念物「長走風穴高山植物群落」があり、古くは長走山とも呼ばれた国見山。天狗伝説をもつ城ケ倉山。平安時代の大集落である大館野遺跡と矢立廃寺の間にあって、その山称からいかにも信仰の山であったと考えられる男神山と女神山、そして九僧堂山。昇天僧塚と赤鬼・青鬼の伝説をもつ筑紫森。相馬大作の津軽公襲撃の地と考えられている岩抜山などが矢立地区にある。

釈迦内地区には、東麓に国指定天然記念物「芝谷地湿原植物群落」を有し、近年の激しい経済活動の浮沈を象徴するかのように、鉱山の開山と閉山が瞬時に起こった萩長森。西麓に米代川流域最古の先人の足跡をとどめる松木高館平田石器時代遺跡があり、大館地方では唯一の山城様式城館が占地する松木高館山がある。

長木地区には、長木沢林業の祭神を祀る羽保屋山。矢立境に広大な面積を占め、昼なお暗い大森林であったことからその名のついた黒森。鬼ケ城山とも呼ばれ、戊辰戦争で激しい争奪戦が繰り広げられた鍋越山。四季折々の美しい姿で人々を楽しませ、大館八景に選ばれた岩神山。日本三大シャンツェの一つに数えられ、全日本級のジャンプ大会が開かれた長根山がある。

下川沿地区には、信仰の対象であり、小規模ながらも風穴があって、現在はその山麓の公園化事業が進められている二ッ山。川口地区住民の憩いの山である中学校裏の新道山がある。

十二所地区には、かつて女性の信仰を広く集めた淡島様が山腹に座す曲田の鞍掛山。米代川畔にあって浅利氏との抗争に悲話を伝える額田氏の城塞、萩峠。浦山と猿間の二集落で祀り、かつては参詣人でにぎわった鬼神様の山などがある。

大館盆地をめぐる山々の中には、著しくその姿を変えられたものがある。また、山に対する意識、関心が薄れつつある現代でもある。山と丘に囲まれた盆地に生きる私たちは、めぐる蒼杉碧樹の山と丘を守り育て、親しみ、その恩恵の潤沢なることを祈り願うことを忘れてはならないであろう。

市役所史跡探訪会

「とび出すな」ぼくたちみんなの合言葉

三月に入り暖かくなってくると、子供たちは待ってましたとばかりに外で遊びはじめます。

しかし、この時期に怖いのは子供の交通事故。「危ないよ」「気をつけてね」というような言葉だけではなく、なぜ危ないのか、何に気をつければよいのか、具体的に教えてあげてください。特に、入園・入学を控えたお子さんには、道路にでるときや道路を渡るときは、必ずいったん止まって右・左を確認する習慣をつけさせましょう。

私の本棚

中央図書館新着図書

『楼蘭からの手紙』

田川　一郎　著　　テレビ朝日

シルクロードにおける東西交流の要衝として存在したオアシス都市楼蘭は、忽然とその姿を消滅してしまう。楼蘭の都に何が起こったのか。今わずかに残るその住居跡・城壁・仏塔など幻の王国楼蘭をたずねる探検紀行。

一般書　◇ヒトはなぜ二本足で立ち上がったか（小沢直宏）◇ゴルバチョフ「次の手」を読む（永田実）◇ダイヤモンドダスト（南木佳士）◇ＹＥＮ！（ダニエル・バースタイン）◇大江戸知る識る帳（大西信行）◇現代の家相（清家清）◇人麻呂の暗号（藤村由加）ほか

児童書　◇公害に苦しむ野生生物（マイケル・ブライト）◇盲導犬の訓練士（菅能琇一）◇クジラと話のできるラッパ（高橋健）◇衣食住に見る日本の歴史〔全７巻〕（あすなろ書房）ほか

📖３月のテーマ関連図書コーナー・『あし』

📖親子読み聞かせ会

毎週金曜日　午後２時30分から

📖中央図書館の休館日

３月19日、21日、23日、４月16日